

講演テーマ **支援する人・される人の思い**
～共生社会におけるコミュニケーション～

【講師】 近畿大学 教職教育部 准教授 **向後 礼子**

震災後、絆という言葉がクローズアップされました。また、言葉としては絆ほど注目されませんでした。さまざまな形で他者との縁を感じられた方も多いのではないのでしょうか。私たちは、社会の中で生きています。そのことを強く再認識する機会でもありました。しかしながら、時には、思いや言葉のすれ違いから苛立ち、対立することもあります。こうしたすれ違いの背景には、支援する人・される人の立場の違い、世代間のギャップ、また、障害特性による困難などさまざまな要因があります。

現在、誰もが共に生きる社会の実現が目指されています。そんな中、改めて人と人とを繋ぐコミュニケーションについて考えてみたいと思います。



【講師プロフィール】

向後 礼子 (こうご れいこ)

近畿大学 教職教育部 准教授

【プロフィール】

早稲田大学大学院文学研究科にて心理学を専攻。その後、発達障害を中心に障害のある人の学校から職業への移行支援に関する研究に携わる。精神保健福祉士・臨床発達心理士 SV・学校心理士。2009年、近畿大学教職教育部に着任。

【著書】

『障害理解』（誠信書房）

『ヒューマンサービスに関わる人のための人間関係学』（文化書房博文社）

『就労支援サービス』（久美出版）他 いずれも共著

支援する人・される人の思い

共生社会におけるコミュニケーション

教職教育部 向後礼子

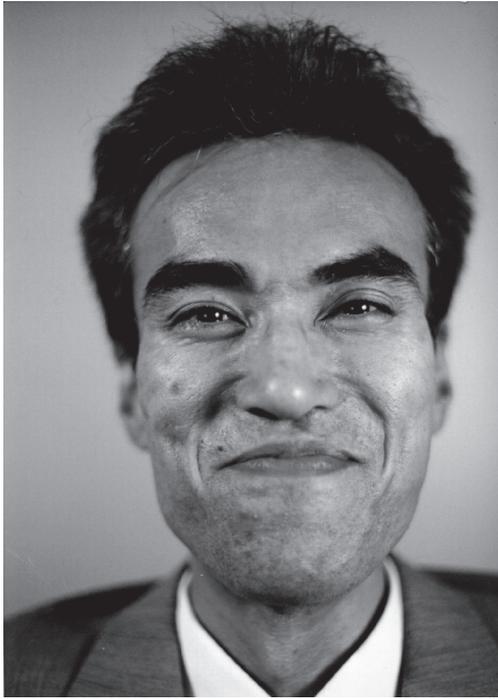
コミュニケーションとは

言葉によるコミュニケーション

例) 頑張ろう ・ 大変だったね ・ 良かったね

言葉によらないコミュニケーション

例) 表情、視線、姿勢、身ぶり、
声の大きさ、話す速さ、
相手との距離など



すれ違う思い

相手のための言葉・行動なのに.....

- 将来のために、今、勉強しておかないと.....
- 食べ過ぎは良くないよ.....
- 少しは運動しないと.....
- いつまでもくよくよしていないで.....
- 大変そうね。私がやってあげる.....
- あなたはなにもしなくていいから.....

相手のためを思う「私」の存在

“私 = 自己”を中心とした考え

自分と異なる考え・価値観があることを意識せず
(理解できず)に自分の主張を優先する

自分とは異なる考え・価値観があることを
知ってはいるが……

“自分”の経験から、良かれと思う

相手の立場に立つこと

相手の立場に立つということ①

自分中心から「脱中心化」へ

→ 発達の過程でできるようになること

■本の中の登場人物の気持ちについて答えなさい

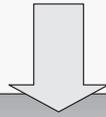
→ 「もし～～だったら」

→ 相手の立場を思いやる気持ち

相手の立場に立つということ②

「自分」が相手の立場なら、
どんな言葉を掛けてほしいか

一人ひとりで異なる価値観・性格・経験……



「相手」(自分とは異なる人)が
掛けてほしい言葉とは

支援する人・される人

お願いしたいことが……
理解してほしい

できることがあれば……
理解したい……

思いがすれ違うとき

相手のためを思う／相手の思いは？

できることは自分で

①

時間を掛ければできるけど、
やってもらえれば……

時間を掛ければできるだろうけど、
大変そうだから代わりに……

②

怪我などしたら……

自分のことは自分でしたい

相手のため？ 自分のため？

- ・やってあげている
- ・感謝されたい

言葉にしなくても
伝わる気持ち



ありがたいとは思
うけど……

本当は断りたい
けど……

気持ちを伝える言葉

申し訳ないね……
ごめんなさいね……

ありがとう
助かるよ



知識と技術

関心をもつこと

知識

生活の中の気づき

支援の気持ち

技術

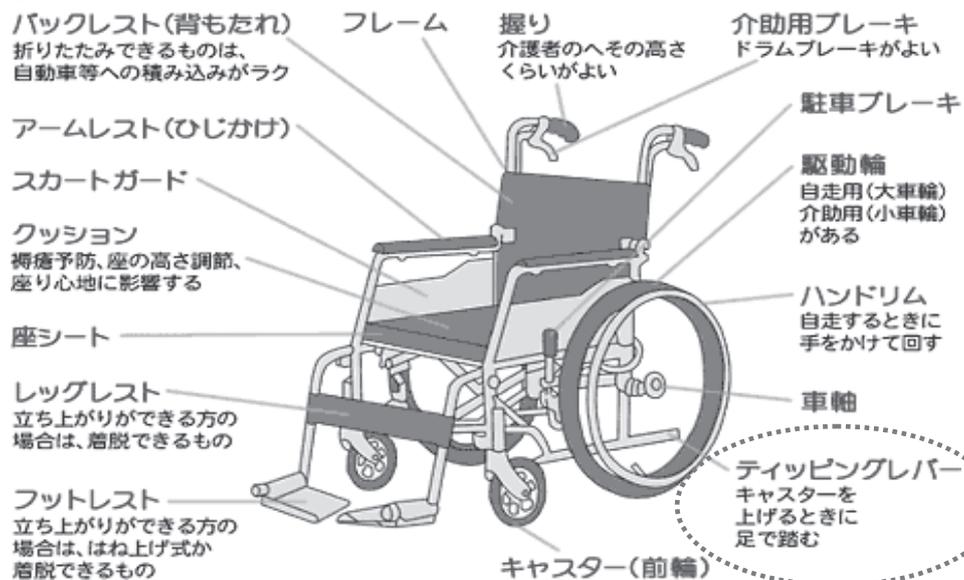
行動

安全な支援には、技術が必要なこともある

関心をもつこと



車いすの各部の名称



<http://www.matsuyama-wel.jp/goods/kurumaisu.html>

高齢化社会を迎えて

約4人に1人が65歳以上

コミュニケーションをめぐる

高齢者を取り巻くコミュニケーション環境

高齢者以外の大人たちの「高齢者に対する言葉遣い、話し方、態度、しぐさなどの、言語・非言語行動とそれらを生み出す社会的環境」(1998、宇佐見)

例)第2のベビートーク:

子どもに話しかけるような話し方
大声でオーバーなアクション

例)おじいちゃん・おばあちゃん(名前を呼ばれなくなる)

尊厳を損なうコミュニケーション

保護的なコミュニケーションは適切か

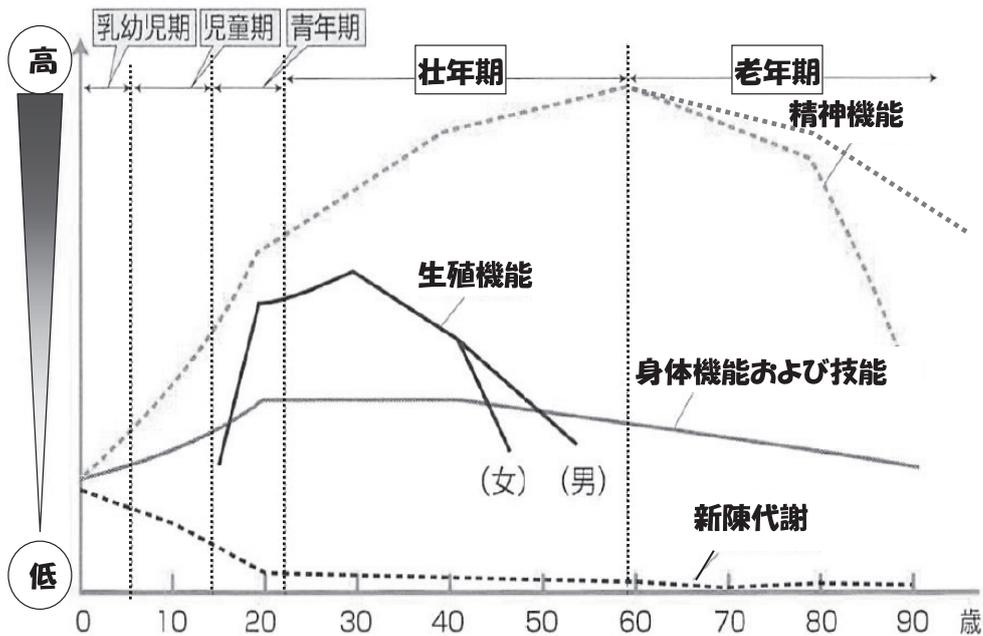
高齢者のコミュニケーションについての ステレオタイプな見方

・思考力が劣る ・耳が遠い ・依存的 …… など

■身体・精神・情緒の面において加齢の影響は個人差が非常に大きく、それを年齢によって一律に扱うことは適切ではない。

■加齢の影響によりできないことに焦点を当てるのではなく、相手のできることに注目し、尊厳を大切にされた関わりが重要

思考力：経験は力



流動性知能と結晶性知能

■流動性知能

新しい場面への適応を必要とする際に働く能力や新規の問題を解決するために自分で方法を作り出し、解決する能力のこと

■結晶性知能

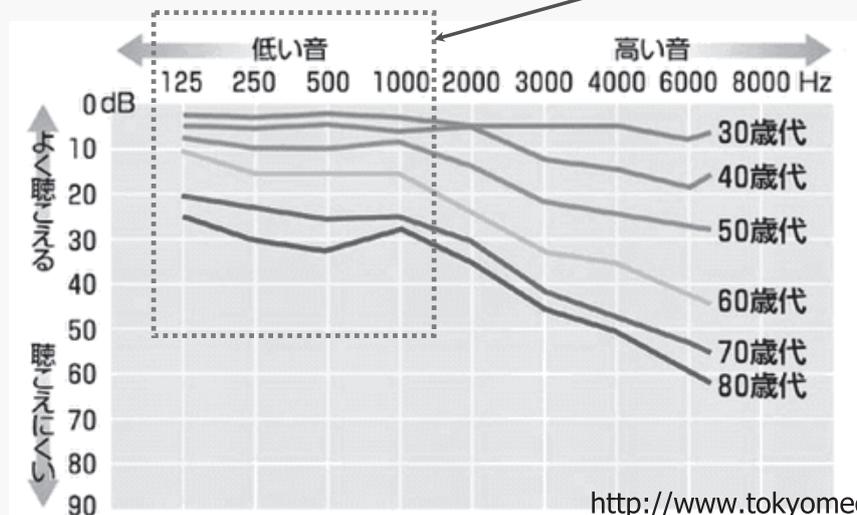
言語や社会的知識に代表されるもので、過去の学習経験に基づいて得られた判断力など。
高齢期になっても比較的遅くまで維持される能力のこと

聴力をめぐって

■老人性難聴

65歳以上の4人に1人程度。

日本語



<http://www.tokyomegane.co.jp>

依存的？

支援する側の姿勢が
支援される側の態度に影響する

- 「支援される側」が「支援する側」の
思いにあわせていることに気づく
(できないところは助けてもらっているし.....)

平成23年度

- 65～69歳の就業率は、男性が2人に1人程度
女性が4人に1人程度

待つこと

個人差はあるけれど.....

- ・筋力の低下
- ・敏捷性の低下
- ・疲れやすい
- ・見えにくい(白内障)
..... など



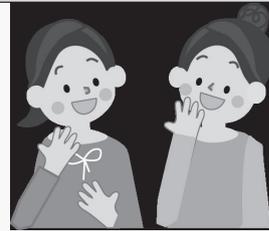
- 目に見える「困ったこと」「困っていること」には
気づきやすいが.....

気持ちは伝えるもの？ 伝わるもの？

- ・早くして
- ・わがまま言わないで
- ・迷惑だわ



- ・ゆっくりどうぞ
- ・どうしてだろう？
- ・なにかお困りかしら



終わりに

共生社会

すべての国民が、年齢、性別、障害の有無などによって分け隔てられることなく、互いの人格と個性を尊重し合いながら、共に支え合って生きる社会





近畿大学 総務部総務課

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

TEL (06) 6721-2332

E-mail kouza@itp.kindai.ac.jp

URL <http://www.kindai.ac.jp>